

# 子どもたちの笑顔が元気の源！ 読み聞かせボランティア、虹の会

読み聞かせボランティア「虹の会」の皆さん。図書館からの「本を生の声で聴かせるボランティア活動を」という呼びかけに応じ、平成5年に結成。今年25周年を迎えました。毎月第2土曜日に図書館本館のおはなし室で開催している「定例おはなし会」のほか、市内の小学校などに出向き、読み聞かせを行うなど、精力的に活動しています。  
「絵本の楽しさ、奥の深さを感じることのできる読み聞かせの世界を、体験してみたいですね」。現在、新たな仲間を募集中。



「虹の会」定例おはなし会

**本**市における、読み聞かせの取り組みを語る上で外せないのが、読み聞かせボランティアの存在です。現在の図書館本館ができた頃から、おはなし会を続けていた読み聞かせボランティア「虹の会」の皆さんは、今年で25周年を迎えました。

虹の会は、毎月開催している定例おはなし会のほか、市内小学校での朝・昼読書や放課後子ども教室、保育所などに出向いてのおはなし会も開催しています。

さらに、ブックスタート事業にも協力するなど、幅広い活動を行い、子どもたちが本に親し

む機会を提供しています。  
**絵が助けとなって  
物語に導いてくれる**

虹の会立ち上げからのメンバーの一人でもある、会長の石塚裕子さんは「絵本には絵とことばがあります。ことばが未発達でも、絵が助けしてくれるので子どもはその内容を理解し、楽しむことができます」と絵本の魅力を語ります。

また、絵本の選び方については「絵本にはさまざまなジャンルがあります。子どもの日常をとりあげたもの、ファンタジー、昔話、科学や詩の本など。楽しみ方も色々です。大切なのは子どもの成長にあった本を選ぶことです」と話してくれました。

25年という長い間にわたり、活動を続けてこられた原動力を伺うと「子どもたちの笑顔、お話を吸い寄せられるような真剣な表情や、読み終えたあとの、おもしろかった！またきてね！との言葉が私たちが元気にしてくれます。選んだ本が子どもたちの心に届いたかたって」という言葉が返ってきました。

「一緒に活動してくれる仲間がいるから楽しいし、続けられているのだと思います」。